

第3章 訓練終了後のアンケート結果

総評

1 訓練企画・評価について

今年度の訓練は、初の試みとして訓練項目ごとに担当を配置し訓練内容の検討を実施した。

その結果、各訓練項目において事前の研修等を実施するなどにより、より実践的、効果的な訓練とすることができた。半面、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、住民参加や参加関係機関が少なかった。

また、これまでは全体会議を複数回開催し、全体会議終了後に訓練項目ごとの分科会を開催していた。今年度は、全体会議を訓練全体の共通認識を図る場とし1回のみで開催とした上で、訓練項目ごとに全体会議とは別日程で必要回数の分科会を開催し、訓練内容等を検討した。

2 訓練実施について

全体的に、各訓練項目においてなすべきとしたことは概ねできていた。

ただし、細部においては改善を要する点や課題が多数挙げられており、訓練大綱に掲げる「訓練結果を踏まえた教訓事項の案出と計画への反映」を進めることができた。

各訓練項目とも、新型コロナウイルス等の感染症を想定して訓練を実施したところであり、概ね対応はできていたが、参加者が集中する訓練場面を中心に課題もあった。

3 訓練評価について

初の試みとして、全訓練項目にそれぞれ評価者を配置し評価したところ、訓練参加者とは異なる視点から、想定している以上にうまく実施できた点や課題を抽出することができたところではあるが、訓練項目ごとの評価項目の設定が難しいなど、評価自体に対する課題も浮かび上がった。

4 来年度の訓練に向けて

(1) 訓練参加者について

今年度の訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により、特に住民参加が少なかったことはやむをえないが、来年度以降の訓練においては、訓練の実効性を高めるという意味においても、できるだけ多数の住民参加を得て訓練を実施する必要がある。

そのためには、住民が参加しやすい訓練日時とすることに加え、住民が訓練に参加したいと思わせるインセンティブを検討する必要があると思われる。

(2) 訓練企画について

ア 訓練の難易度

多くの参加者が訓練でなすべきことができたとしていることから、訓練において参加者に判断を求める場面を増やす、シナリオを開示していた訓練をブラインド型にするなど、難易度を上げた訓練を企画する必要があると思われる。

イ 訓練担当

訓練項目ごとに訓練担当を配置したことには利点も多かったが、担当が多いがための問題も生じたところであり、配置方法については検討が必要。

また、今年度は一部を除いてほとんどの訓練項目が同日実施となったため、訓練担当が参加できない訓練が生じてしまったため、改善を要する。

ウ 調整会議等

全体会議は1回で十分であったのか、複数回開催すべきかについて、全体会議に求められる役割を再検討の上、開催回数や開催のタイミングを検討する。

分科会については、訓練内容を詰めるだけではなく実効性向上につながった面もある反面、訓練項目によっては開催しづらいものもあったことから、全体会議のあり方とともに、開催方法の検討が必要であると思われる。

エ 訓練項目間の連携

今回の訓練は機能別訓練であったが、訓練全体が見えないなどの意見もあったところであり、全体における各訓練項目の位置づけを明確にするとともに、連携をさらに意識した訓練を企画する必要があると思われる。

オ 評価

訓練参加者のみならず、第三者的視点で訓練を評価することで、これまで問題とは認識していなかった事項が問題として捉えることができるようになるなど利点が多いことから、来年度以降も評価者を配置することを検討する。

なお、評価項目・方法については、より課題抽出に寄与できるよう工夫する。

また、参加者アンケートについても、一部を共通事項とし、それ以外の部分は訓練項目ごとに必要な項目を設定するなど、次年度以降の訓練等に活用できる内容とする。

(3) 案出された教訓事項への対応

今年度の訓練から案出された課題・教訓事項については、その解決に向けた取り組みを訓練項目ごとの目標に掲げるなどにより、来年度以降の訓練において解決を図っていくこととする。

評価及びアンケートまとめ＜避難所開設・運営訓練、物資輸送訓練＞

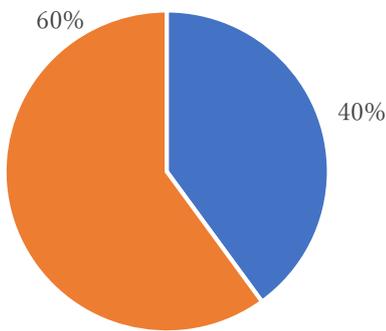
1 全般

6割の参加者が過去に訓練参加経験あり、4割がなしとの回答であった。

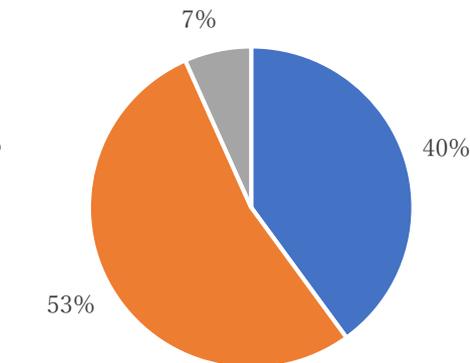
9割以上の参加者が訓練における自分の役割を理解し、果たすことをよくできたもしくは概ねできたとしている。

9割以上の参加者は訓練が防災意識向上につながるとしているが、防災担当部署だけではなく、実際に避難所運営に携わる関係課職員の参加がないことから、防災意識の向上にあまりつながらないとした意見もあった。

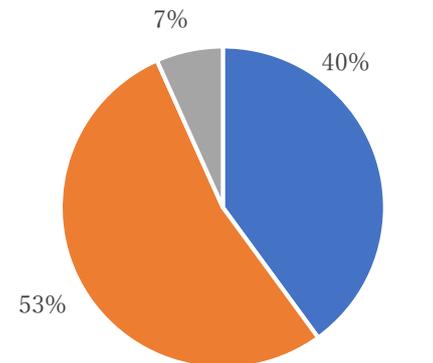
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与



■ ある ■ なし

■ 良くできた

■ 概ねできた

■ つながる

■ 概ねつながる

■ あまりできなかった

■ 全くできなかった

■ あまりつながらない

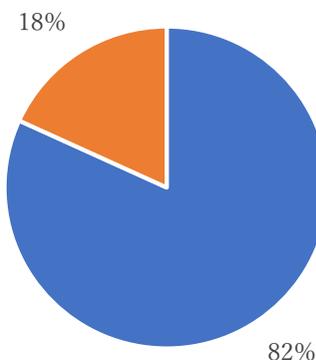
■ つながらない

2 新型コロナウイルス感染症対策

パーテーションの高さが低く、感染予防の観点では効果が低いと感じた。展示物でもあり、見本となる者であることから、考慮が必要。

検温体制が不十分。受付での渋滞は避けるべき。移動前に車内で検温させ、総合受付でその結果を聞き取るなどし、建物内では手指消毒の徹底に専念した方がいいのではないか。

感染症対策



■ 十分 ■ 不十分

3 訓練実施

本訓練項目は、一般社団法人男女共同参画地域みらいねつとに「令和2年度青森県原子力防災訓練（避難所開設・運営訓練）企画運營業務」を委託して実施。

原子力防災訓練（避難所開設・運営訓練）及び事前研修会の企画・運営であり、訓練終了後に報告書を別途とりまとめ。

4 訓練評価

概ね訓練において実施すべきことはなされていたが、いくつか合理性の評価が低い項目があった。

【良かった点】

- ・限られた人員の中、必要な事項がきちんと行うことができていた
- ・食料配布の陳列が徹底しており、配布がスムーズに行えた

【改善を要する点】

- ・避難者名簿の作成については、改善の余地あり
- ・受付レイアウトは事前打ち合わせのものより、当日現場で修正したものの方が合理的
- ・食事場所のレイアウトについて、改善の余地あり
- ・物資輸送訓練の物資はもっと多い方が訓練になる
- ・物資輸送訓練について、自衛隊の動きに避難所スタッフが追いついていなかった

5 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・訓練参加者に対する事前説明が不足している。
- ・県訓練担当者が統監対応を重視し、訓練参加者の習熟という主目的が欠落していたように思う
- ・各所からアナウンスされていたが、アナウンスは一本化した方が混乱しないのではないか
- ・自分の動きしかわからず、全体の動きがわからなかった
- ・個人の役割を事前にもっと詳しく教えていただきたかった
- ・事前に示された動きと実際の動きに違いがあり、動きが止まってしまった
- ・防災担当部署だけでなく、実際に避難所運営に携わる関係課職員の参加が必要（そのためには訓練参加依頼文に関係課が参加しやすくなる工夫が必要）
- ・訓練統監の視察計画も知っておきたかった
- ・参観者と訓練参加者の区別がつかず混乱した
- ・コロナ対策で難しいと思うが、もっと本格的な避難所運営や東通でなければできない訓練を受けたかった
- ・図上訓練も実施できればと思う
- ・実際の避難手段により対応が変わるので、もっと細かい状況を付与いただきたかった
- ・バス避難者に対し、バス車中で注意喚起や確認事項を並行して行ってはどうか
- ・映像伝送訓練は全参加者見ることができるよう、大型スクリーンに投影することで意識の醸成が図られると思う
- ・被ばく線量管理や除染訓練も実施した方がいいのではないか
- ・避難所において線量を測るのか、どこかで測ってから来るのかわからなかった
- ・今回のように関係市町村全部が参加できる訓練はよいと思った

【平時における準備に関すること】

- ・原子力災害時の流れを把握しておく必要がある
- ・担当レベルでの打ち合わせや調整の実施
- ・受入市町用のマニュアルがあればいいのではないか

【問題提起】

- ・感染症を勘案すると、現状では全避難者を受け入れることは困難であり、県が主導して受け入れ先の拡充と避難者想定の見直しをすべき
- ・受入市町では防災担当課以外の職員はほとんど動きがわからないことから、県の協力を望む
- ・自然災害との複合災害としての図上訓練を実施すべき
- ・もっとたくさんの関係機関を巻き込むべき

【資機材整備関係】

- ・避難所における備蓄は最低限どの程度必要なのか気になった
- ・避難所運営資機材として、避難所資機材、衛生資機材のほか保管できるコンテナが必要

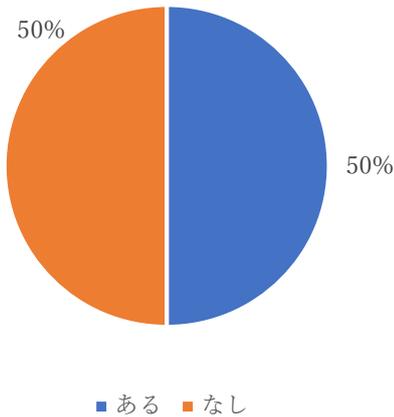
評価及びアンケートまとめ<映像伝送訓練>

1 全般

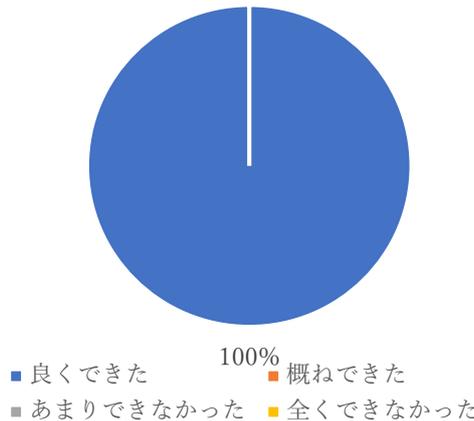
原子力防災訓練への参加経験は半数があり、半数がなし。

全員が自分の役割を理解し、果たせたとするとともに、本訓練が防災意識醸成につながるしている。

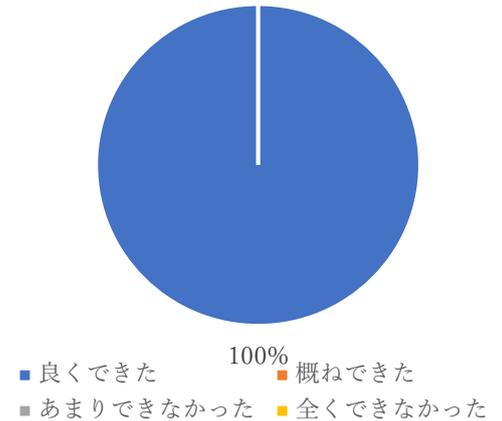
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与



2 訓練評価

基本的に、訓練において求められたことについては確実に実施できていた。

【良かった点】

- ・打ち合わせ段階では想定していなかった音声の出力やカメラ移動にも適切に対応できた
- ・スケジュール変更にも臨機応変に対応できた

3 訓練に係る意見

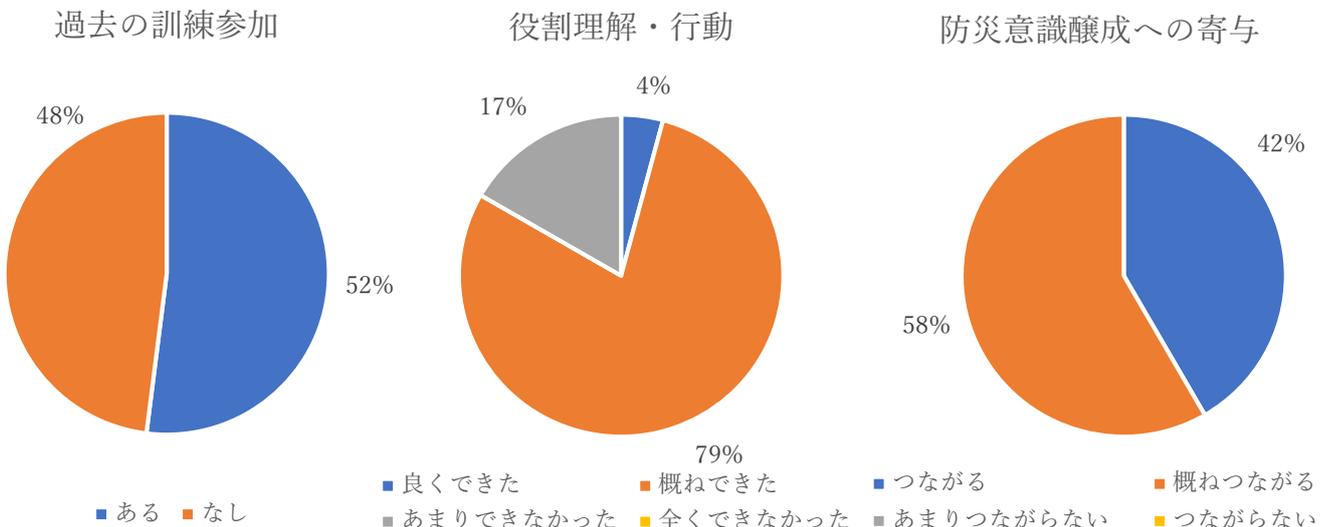
- ・様々な状況下での訓練を経験したい。
- ・映像伝送会場における訓練参加者（映像伝送以外の訓練項目含む）が映像を視聴できるようにした方が訓練意欲、防災意識が高まる（大型スクリーンに投影するなど）

評価及びアンケートまとめ<傷病者等搬送訓練>

1 全般

訓練への参加経験がある者となない者がおおよそ同数であり、参加者のほとんどが役割を理解するとともに、訓練が防災意識の向上につながるともしている。

役割を理解できなかった理由としては、状況がわからない、原子力の知識が乏しい、自分の役割が不明確、一定時間内にやるべきことが多かったとしている。



2 新型コロナウイルス感染症対策

今回の訓練では、訓練参加者自体の感染症予防対策は実施したが、訓練の想定において感染症を強くは意識せずに実施したところであるが、本訓練項目においても感染症対策を念頭に置いた実施が必要との意見もあった。

3 訓練評価

概ね訓練において期待されることはできていた。

【改善を要する点】

- ・汚染区域の境界をしっかりと明示する必要がある

4 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・実災害を想定すると今回の訓練会場は狭かった
- ・現場における指揮命令系統を明確にするために、現地合同指揮所設置の必要がある
- ・汚染防止の観点からも動線、エリアを管理する者が必要
- ・他消防本部との連携を図ることができる訓練を希望
- ・普段使用することのない資機材を使用した訓練を希望
- ・荒天時の訓練も必要
- ・傷病者が多数発生する訓練も必要
- ・想定訓練だけではなく、部分訓練も行うことで理解度が上がると考える

- ・現状の引継ぎ方法では、引継ぎ直前までストレッチャー操作が UPZ 内消防の業務となるので、引継先消防を汚染させる可能性がある。移動用のストレッチャーを用意し、拠点隊員が移動させることで汚染を最小限とすることができるのではないかと
- ・テント内において汚染の有無を想定したゾーニングや傷病者の引継方法を念頭に処置手順を確認する訓練も必要
- ・医療機関における傷病者受け入れ・搬送訓練、避難退域時検査訓練においても感染症拡大防止を念頭に置いた訓練実施が必要
- ・テントが汚染の有無で分かれていたが、入るべきテントの間違いが発生した。テントの役割を明示する必要があると考える。
- ・知っていて当然の場所であっても、誰もが一目でわかるように名称等を明示する必要がある。
- ・当日訓練担当者からの具体的な指示がなかった
- ・県本部としての役割を果たせなかった（消防機関活動の間に入ることができなかった）

【平時における準備に関すること】

- ・実動部隊の活動拠点場所を選定しておく必要がある
- ・引継場所には水除染の可能性も含め、水源があることが望ましい
- ・原子力防災基礎研修を受講してから訓練に参加することが望ましい

【問題提起】

- ・救命に主眼を置くべきと考えるが、今回の訓練は汚染検査に時間がかかりすぎたと思われるので、いかにして時間短縮を図るかが課題
- ・UPZ 内外の行き来の手順を明確にしておく必要がある

【資機材整備関係】

- ・活動拠点となる施設にテント等の資機材を保管できれば活動の負担が軽減されると思われる

評価及びアンケートまとめ<緊急時モニタリング訓練>

1 評価

- ・プラント及び周辺環境の状況について十分に説明していた
- ・各モニタリングチームの役割、注意点等について、明確に説明があった
- ・指示内容を明確に記載しており、地図等必要な付帯情報も添付されていた
- ・指示書の交付は、基本的に防護服等の着用が終わり出動する前がよいと思われ、各チームの準備状況等により柔軟な対応が必要であるが、着用作業を中断させて交付するのは避けた方がよい
- ・不具合のある個人線量計を配布した例があった
- ・ラミセスの設定等で出動に時間を要しているように見られた
- ・どの資機材が必要なのかうろろうしている要員が見られた
- ・長靴、オーバーシューズの着用を、出発ゲート1カ所で実施していたのがボトルネックになっていた
- ・基本的に防護服は2人で着用するという意識を持った方がよい
- ・持ち物等のチェックをしっかりと行っていた
- ・想定よりも時間がかかっている班が見られた
- ・ラミセスによるチームの現在地確認がうまく機能しなかった
- ・大きな地図でのチーム活動位置の表示ができていなかった
- ・ラミセスの機能を習熟する必要がある
- ・チームからの連絡への対応が、EMCセンター長に相談すべき事項か報告でよい事項かを判断する必要があるが、はっきりしないときは、いったんチームを待機させ、EMC内部で検討してから指示を出すようにする
- ・走行サーベイ結果を訓練中にチェックしていなかった
- ・走行サーベイ結果をリアルタイムで送信する方法を検討する
- ・現地でのサーベイ結果に基づき、走行サーベイの追加実施について、企画調整グループに提案した
- ・汚染検査業務を2名で担当するのは困難
- ・帰還した要員は、担当者の指示に従うとともに、マニュアルを見ながら慎重に脱衣していた。”
- ・手や顔の除染がウェットティッシュだけでは十分でない場合が考えられる
- ・しっかり記録されていたが、線量計の個数に対して、表が小さいように感じた（文字が書きづらいように感じた）

2 訓練に係る意見

【訓練内容に関すること】

- ・汚染していないエリアに行く前には汚染状況を確認する必要があるため、検査は必要である
- ・車両の汚染検査及び除染について、時間をかなり要した。優先順位が高い車内及びドアノブに限定してもよいかもしれない
- ・サーベイメータ等を雨ざらしの場所に置くのは問題なので、車庫のそば等で行えばよいのではない

- ・スケジュールが全体的に押し気味と感じた。個々の作業に不慣れな部分もあると思うので、作業自体の習熟が必要である
- ・サンプルの受け取りまでの待ち時間が長いと感じた
- ・外に出るチームについて、往復の時間をもう少し短縮できないか。路面が凍結したりしていると想定以上に時間がかかる
- ・実践的な訓練でよかったが、十分にラミセスを使用することができなかった。具体的には、訓練モードと通常モードを同時に同じ画面で見ることができないため、どちらかの画面しかみることができない
- ・県ラミセスによる各チームの位置情報の把握が現在の画面設定では難しく改良が必要である。
- ・総括・連絡班に電話しても通じず、かけ直す場面があった。現場への到達連絡や簡易な報告は、LINE やそれに準じるものがあればよいのではないか
- ・もう少し自分の担当する内容について、説明してもらえる時間があればよかった
- ・自分が何をすべきか、チームがスムーズに動くにはどうすべきかを考えて行動できるようにしたいと感じた
- ・モニタリングの一連の流れを確認できたことは、モニタリング要員として非常に有益であった
- ・車の汚染検査や除染など新しい試みがあり、実際のことを考えているなどと思った
- ・行き当たりばったりで参加したが、ナビの指示がよくなんとかこなせた
- ・実践的な訓練で緊張感をもったのぞむ形となりとても参考になった
- ・試料採取等を行うサーベイチームに初めて参加して定時連絡や様式の記入、ラミセス操作等を体験できたのはとても勉強になった。想像していた内容よりやることが多く、忘れることもあったのでしっかりとメンバーと確認をしながら情報を共有することが大切だと感じた
- ・訓練の準備について前日にかなりあわただしく行った。車両の養生など直前でなければ行えないものは仕方ないと思うが、準備も余裕をもって行ったほうが良いと思う
- ・非常にいい経験をさせてもらった。また参加できる機会があれば参加したいと思う
- ・昨年とスタイルを変え、新しい試みを行っていることは評価したい
- ・緊急時に準じた訓練ができ非常に有意義な時間になった。ただし会議室でのソーシャルディスタンスにはもう少し配慮してほしい
- ・総括連絡班は設備の配置、車両の汚染検査など抜本的な改善を図ったので、これを検証した上で今後は主にソフト面（マニュアル等）の充実を図っていきたい
- ・全般的に今後さらなるブラッシュアップが必要である
- ・マニュアルが古いので早めの精査が必要である
- ・外に出るチームの訓練内容はもう少し詰め込んでもよかった。移動時間が多くなっているチームは時間ももったいないのではないか
- ・原子力センター以外の訓練参加者に訓練実施内容や手順を理解していない者が散見された

【訓練を実施しての疑問、課題】

- ・車両の汚染検査について、センター敷地内に汚染検査エリアを設定していいのか
- ・局舎の鍵の受け取り手順が不明確だった
- ・車両の汚染検査の際、サニメント手袋を着用せず検査を行ったが、車両が汚染されていたら作業者が汚染する可能性がある。
- ・防護服以外の汚染された物品についてはどのように取り扱えばいいのか

- ・マニュアルの事前の読み込みが甘かったと反省している
- ・マリネリを返却するタイミングが分からなかった

【資機材関係】

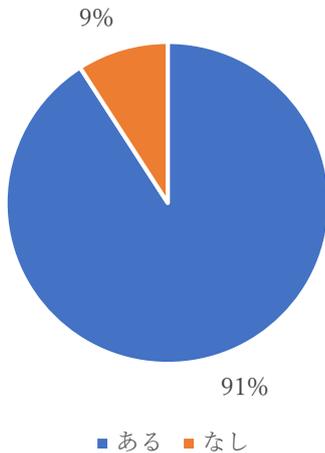
- ・試料採取時に使用するサニメント手袋が小さく、作業がしづらかった
- ・サーベイチームに配布されたバックの使い方が（何を入れるのか）分からなかった
- ・ダストモニタ設置場所のフェンスの鍵を忘れた。持ち物リストについて鍵もチェック項目に加えるべきである
- ・サーベイメータやラミセス等の車内で使用する物品を入れる箱があれば出し入れがしやすい
- ・試料採取後に持ち帰るものを入れる箱や袋があれば忘れ物等がなくなるのでは
- ・水サンプルをポリ瓶の口ギリギリまで入れていたので、ふたを開けるときの水がこぼれてしまった。どの辺まで入れるか線等を書いておけばいい
- ・精度の高いGPSを用意したが、訓練で使用されなかった
- ・RAMISESについて、計測位置、現在位置などがリアルタイムで把握できなかった（訓練モードが関係している可能性あり）

評価及びアンケートまとめ<東通村>

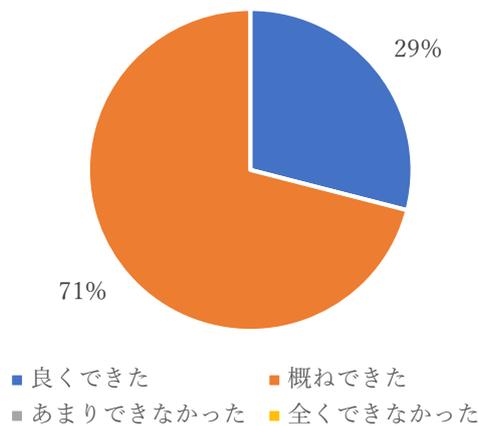
1 全般

9割以上の参加者が、これまでに訓練参加の経験があり、参加者全員が役割を理解し、行動できたとともに、訓練が防災意識の向上につながるもしている。

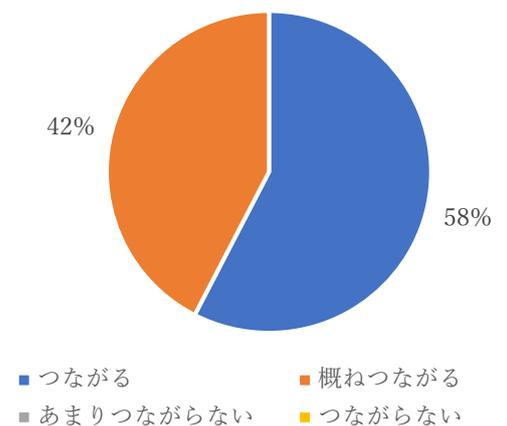
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与

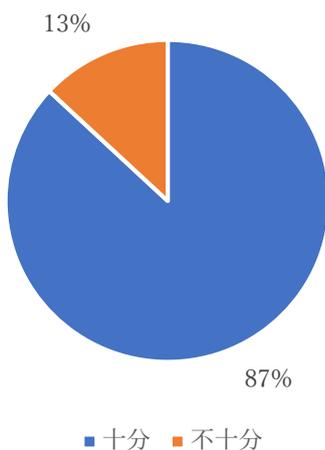


2 新型コロナウイルス感染症対策

訓練参加者の多くが感染症対策は十分だとしているものの、

- ・ 冬季においては、非接触型体温計が正常に動作しない可能性がある
- ・ 避難者全員がそろってから受付するに当たり、密を作り出してしまったなどの問題点が挙げられた。

感染症対策



3 訓練評価

評価は内閣府（原子力防災担当）及び東通原子力規制事務所が行った。

【良かった点】

- ・ 村職員の随行及び誘導が適切で、住民、学校ともに避難者をスムーズに移動できていた点

- ・訓練参加者が真剣に取り組み、緊張感がある訓練となった点

【改善を要する点】

- ・避難者受付に時間を要したため、受付レーンの増、人員の増が必要
- ・トイレも濃厚接触者と健常者を分けるべきであったと考える

【その他】

- ・ダンボールベッドの組み立て等は、今回の参加者を指導者として次回以降の参加者に指導することで、組み立てができる住民を増やしていくことが望ましい

4 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・高齢者以外の住民が参加しやすい日程・時間帯（休日等）での訓練実施が必要
- ・住民の自家用車避難訓練が必要（自家用車避難を基本としているので）
- ・OFC 運営訓練も必要
- ・マスク、帽子での検温は体温が高めに出るので、脱帽が必要

【平時における準備に関すること】

- ・特にUPZにおいて、説明の機会が少ないことから、自家用車避難が基本であることを広報していく必要がある
- ・UPZ 住民に対する安定ヨウ素剤の緊急配布についてさらなる広報が必要

【問題提起】

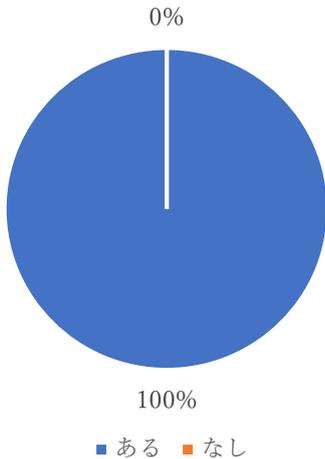
- ・空路避難が必要な住民に発熱があった場合の対応
- ・避難者全員がそろってから受付しなければならなかった理由が不明
- ・視察スケジュールに合わせた訓練実施はいかがなものか、時間が早まった（遅れた）場合の調整方法を事前に検討しておくべきではないか
- ・訓練をいかにして住民目線まで落とし込み、住民が自分で考え、判断行動できるようにしていくかが課題
- ・訓練はバス避難、空路避難中心で、報道もなされることから、自家用車避難が基本であることが伝わらないことを危惧する
- ・原発再稼働を前提として、正しい知識を身に着け、正しい情報提供に努めたい

評価及びアンケートまとめ<むつ市>

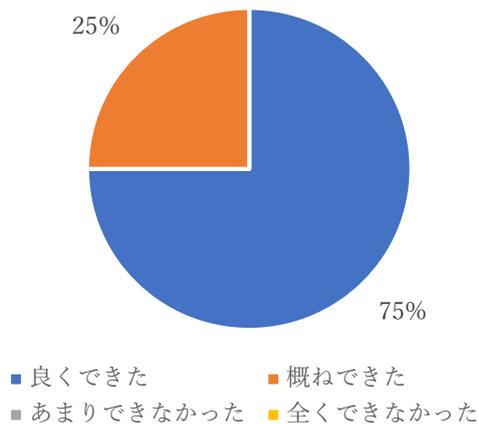
1 全般

評価及びアンケート回答者全員が訓練参加者であり、全員が役割を理解し、果たせたとしている。また、訓練が防災意識の向上につながるとしている。

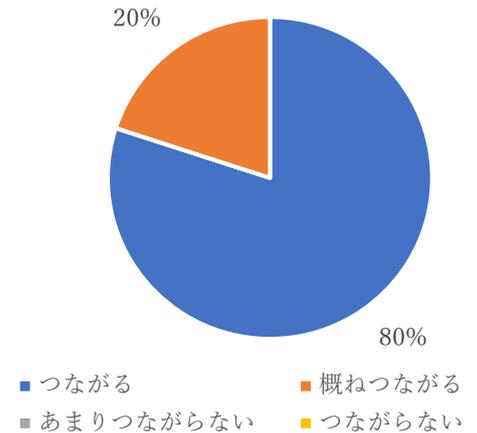
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与



2 訓練評価

概ね訓練において実施すべき内容は実施できていた。

一部不測の事態にも臨機応変に対応できていた。

【今後の訓練への助言】

- ・情報伝達訓練について、到達確認と未到達の場合の対応について事前に検討しておく
- ・測定器については、電池の残量のみならず、動作確認もすべき
- ・防護服について、養生テープの端を折り返すなどの小技が実災害時には有効
- ・防護服装着状況は個人だけではなく、相互確認が望ましい
- ・個人線量計について台帳確認が必要
- ・携行品は一式を持ち出すのみで、個別チェックもすべき

3 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・住民参加がなかったことを逆手に、職員対象の訓練としたが、職員の知識・経験を得る場となり、大変良かった

評価及びアンケートまとめ<野辺地町>

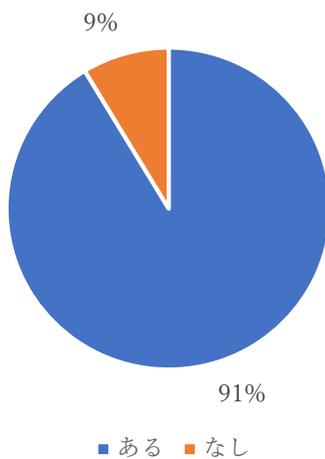
1 全般

参加者の1/3以上が初めて訓練に参加した。

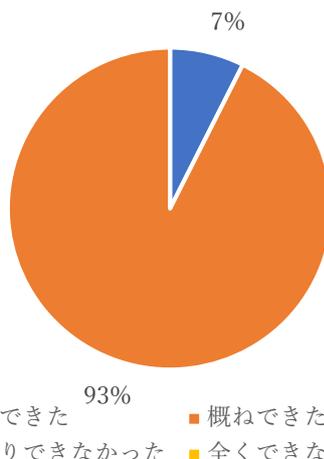
概ね参加者全員が訓練における自分の役割を理解し、果たすことができたと感じている。

多くの訓練参加者は訓練が防災意識向上につながると思っている反面、つながらないとしている意見もあった。具体的には、一部のみの人（職員・住民）が参加しており危機感が不足している、机上訓練では想定した状況を把握できないので、実際に行動する内容の方がいいという意見であった。

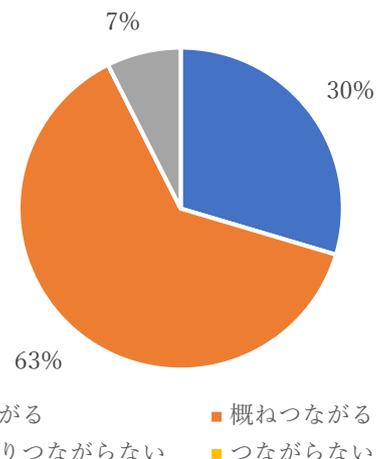
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与



2 訓練評価

訓練においてなすべきことはできているが、あらかじめ整った状況から訓練が開始するなど、実災害に即していない面もみられた。

3 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・ 県と町の一体感がない
- ・ 災対本部訓練は、原稿の読み合わせではなく、スライド等により臨場感を出した方がいい
- ・ 災対本部訓練は、原子力災害のイメージをつかむことができた
- ・ 訓練実施日は土日がよい
- ・ 風向き等により避難地区が広がった場合を想定した訓練が必要
- ・ 初動のみではなく、その後の訓練も必要
- ・ 参集した状態からではなく、参集するところからの訓練も必要ではないか
- ・ 机上の訓練では効果が薄い。1日かけて実際の動きを確認する必要がある
- ・ 実際の災害を想定した実地訓練も必要
- ・ 一定時間経過後の訓練も必要
- ・ 定期的な訓練、複数回の訓練が必要
- ・ 地元5分団以外の訓練参加が必要ではないか。

【平時における準備に関すること】

- ・原子力災害は特殊なので、平時から住民に情報発信する体制構築が必要
- ・感染症対策も視野に入れての物品等の準備が必要

評価及びアンケートまとめ<横浜町>

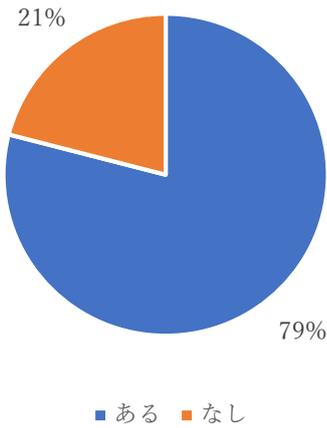
1 全般

訓練参加者の9割以上が過去にも訓練に参加している。

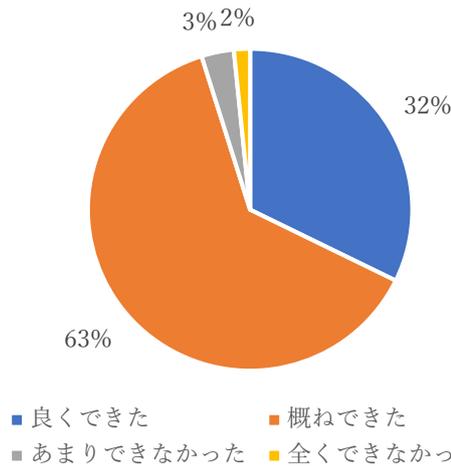
概ね参加者全員が訓練における自分の役割を理解し、果たすことができたと感じている。

また、訓練が防災意識向上につながるとしている。

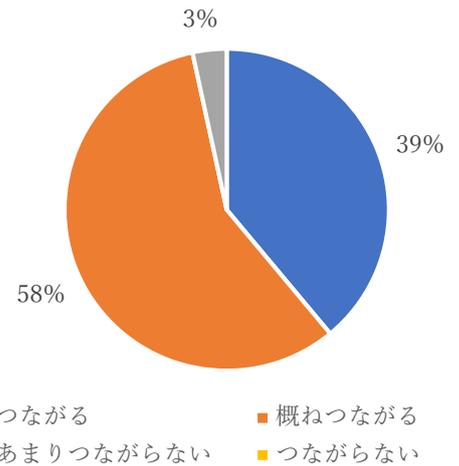
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与



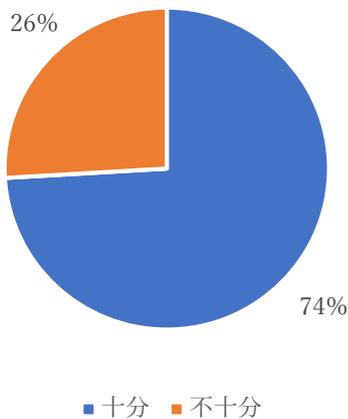
2 新型コロナウイルス感染症対策

同じ訓練項目においても十分と不十分に意見が分かれている。

不十分とした意見の中には、発熱者とそうでないものの動線が分かれていないことを問題視するという具体的なものもあったが、そもそも、現状では一時集合場所・避難所等の開設手順に感染症対策が盛り込まれておらず、十分・不十分の判断ができないという意見もあった。

なお、訓練項目によっては、事前に感染症対応の訓練を実施するという意図が伝わっていないものもあったようで、訓練に係る事前の説明が不十分であった可能性がある。

感染症対策



3 訓練評価

予定していた訓練については、十分に実施できていた。

【今後の訓練への助言】

- ・災害対策本部訓練について、参集した状況から開始していたため、立ち上げ部分から訓練してはどうか
- ・コントローラーを配置し、模擬でも実際に連絡させてみてはどうか
- ・情報収集がグループマネージャー以上のみが実施していたが、課員にも実施させるべき
- ・訓練の動きに合わせてホワイトボード等への記載をさせてみてはどうか

4 訓練に係る意見

【訓練方法等に関すること】

- ・暑い時期の訓練を希望
- ・ブラインド方式の訓練を希望
- ・実災害と同じ状況での訓練実施を希望
- ・テレビ会議システムを使った市町村間連携の訓練実施を希望
- ・単なる連絡受けではなく、双方向のやり取りがある訓練を希望
(平時における準備に関すること)
- ・マニュアル、要領の整備が必要
- ・住民向け、子ども向けの普及啓発・説明資料が必要

【問題提起】

- ・実災害時において要配慮者への対応ができるのか疑問
- ・防護服着用が必要になった場合、きちんと着用できるか不安

【資機材整備関係】

- ・原子力災害用の作業服が必要
- ・夏季において長そで、長ズボンの代わりになるようなもの（ビニール製のカバーなど）が必要

評価及びアンケートまとめ<六ヶ所村>

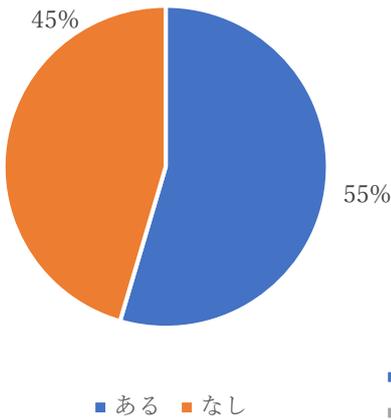
1 全般

参加者の半数近くが初めて訓練に参加した。

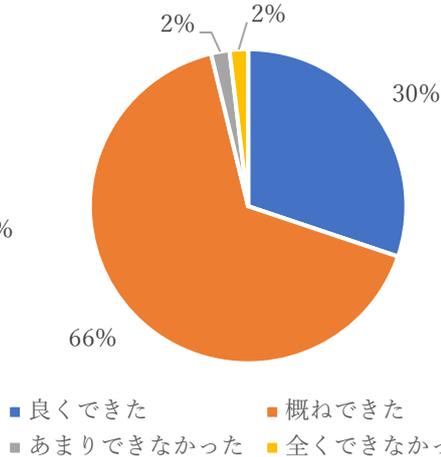
概ね参加者全員が訓練における自分の役割を理解し、果たすことができたと感じている。

また、訓練が防災意識向上につながるとしている。

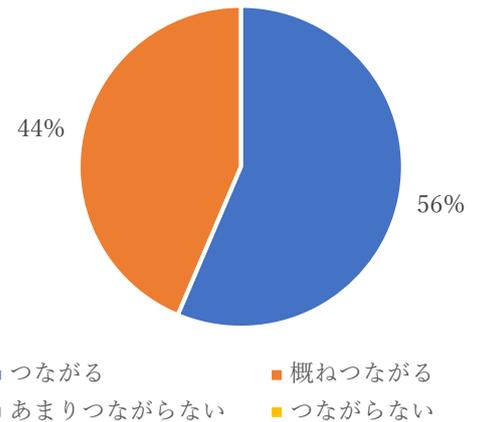
過去の訓練参加



役割理解・行動



防災意識醸成への寄与

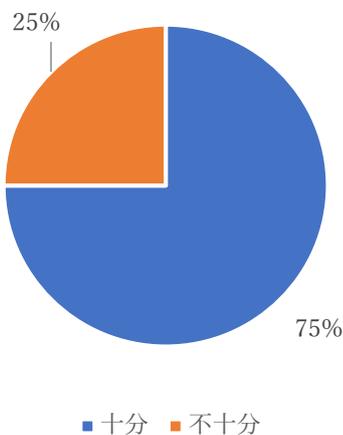


2 新型コロナウイルス感染症対策

感染症対策で不十分とした意見は、以下のようなものが挙げられた。

- ・検温、問診に時間がかかり、受付が集中した場合の対応を危惧するもの
- ・資機材の不足に関するもの
- ・訓練で実施できなかった部分（訓練は隔離までだが、隔離後の対応等）を危惧するもの
- ・一時集合場所（避難所）の構造に関するもの（スロープがないために車いすの動線が濃厚説職者の動線と区別できない、うち履きの脱ぎ履きが受付渋滞を招くなど）

感染症対策



3 訓練評価

【よかった点】

- ・本部会議における本部員の対応が適切であった
- ・衛星電話の取り扱いがスムーズであった
- ・スワニーにおける各班の動きに迷いがなく、やるべきことを速やかに実施できていた
- ・スワニーにおける班長の指示が明確であるとともに、指示が届く位置取りもよかった
- ・防護服着脱訓練は、今後適切な対応ができるようになることが期待される

【改善を要する点】

- ・地図を用いた情報のさらなる可視化必要、また、地図情報の更新が不十分
- ・問診が長いために、受付に時間を要してしまったので、スクリーニングの方法に改善（受付のレーンを増やす、人員を増やすなど）が必要。
- ・放射性物質放出後に入ってきた車いすのサーベイが不十分

【今後の訓練への助言】

- ・本部訓練については、ブラインド型の訓練もいいのではないか
- ・衛星電話以外の手段による通信連絡の訓練も実施してはどうか
- ・案内標記は外国語（英語、中国語）の併記が望ましい
- ・避難者（屋内退避者）のスペースにはトイレなどの案内標記があることが望ましい

4 訓練に係る意見

【訓練方法に関すること】

- ・事前訓練が必要
- ・過酷状況での訓練が必要
- ・ブラインドでの訓練が必要
- ・訓練の対象フェーズをもっと前の部分から開始することが必要
- ・定期的、複数回の訓練が必要
- ・訓練対象は全職員とすべき、訓練を配信して全職員に視聴させるべき
- ・異なる人員配置（編成）での訓練実施が必要
- ・OFC と連携した訓練が必要
- ・職員対象と住民対象の訓練はそれぞれ実施すべき
- ・避難所への宿泊などの体験型訓練の提案
- ・マニュアル通りではなく、イレギュラーが発生する訓練が必要

【平時における準備に関すること】

- ・住民広報の充実

【資機材整備関係】

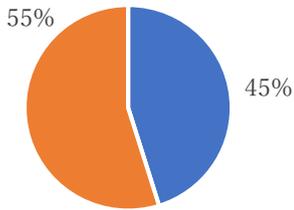
- ・資機材の充実

評価及びアンケートまとめ（東通村・住民防護措置訓練）

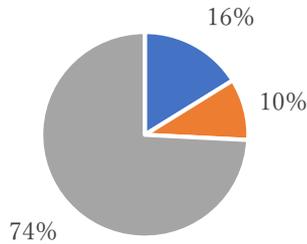
1 全般

住民参加者の男女比率はほぼ半数ずつだが、年代は 60 代以上の方が 7 割以上と若い世代の参加が少なかった。

訓練参加者の性別



訓練参加者の年代

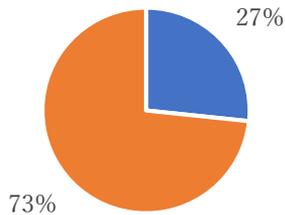


■ 男 ■ 女 ■ 年代 20～30代 ■ 年代 40～50代 ■ 年代 60代以上

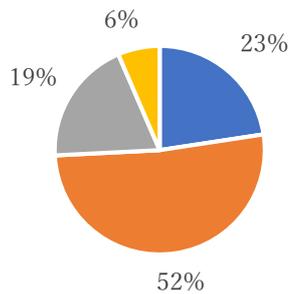
重点区域の理解度は 3 割と低いが、住民避難計画は 7 割以上が十分もしくは概ね理解しているとしている。

重点区域の理解はできてないが、避難計画は理解しているとした参加者が多数いるということは、実際には避難計画についても、あまり理解が進んでいない可能性がある。

原子力災害対策重点区域の理解



避難計画の理解

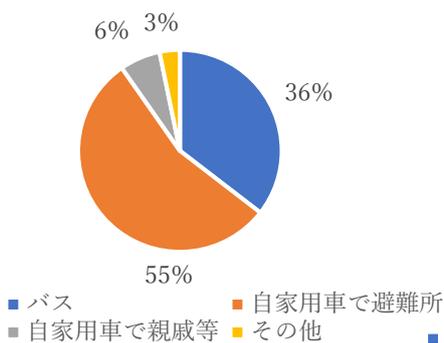


■ 知っていた ■ 知らなかった ■ 十分理解 ■ 概ね理解 ■ あまり理解していない ■ 全く理解していない

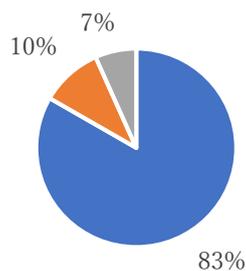
避難手段について 4 割程度の参加者が「バス」と回答しているが、想定しているバス避難者の割合を上回る。原則自家用車避難であり、実災害時には自家用車で避難することとなっているが、今回の訓練においてバスで避難をしたため「バス」と回答した可能性は否定できず、検証が必要と考える。

8 割の参加者が、今回の訓練で行動手順を理解したとしているが、訓練自体は 6 割以上がうまくできてないとしており、実災害時には、8 割以上が何とか避難できるとしている。訓練でできないことを実災害で実施するのは難しいと思われることから、さらなる訓練が必要と考える。

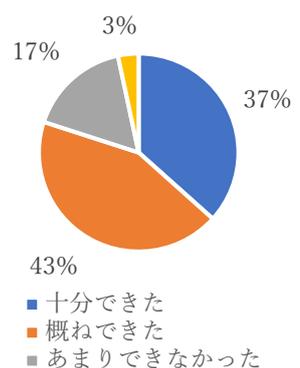
避難手段



行動手順理解

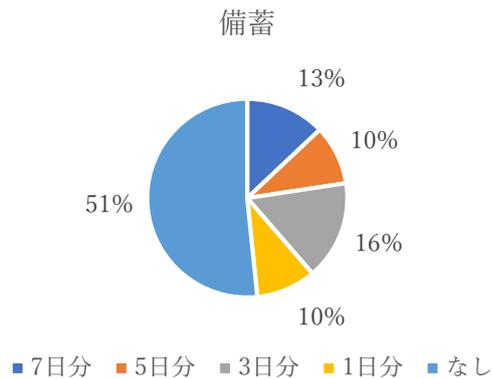


円滑な避難



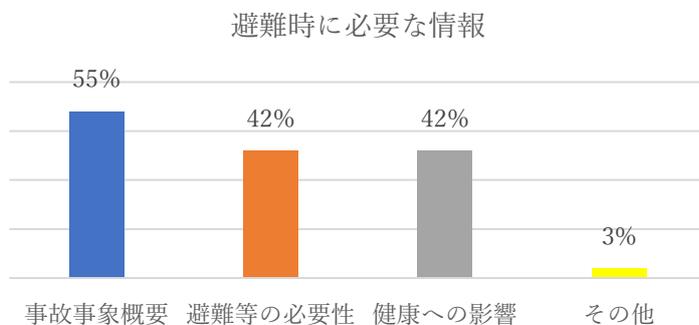
■ バス ■ 自家用車で避難所 ■ 自家用車で親戚等 ■ その他 ■ わかった ■ わからなかった ■ その他 ■ 十分できた ■ 概ねできた ■ あまりできなかった

備蓄についてはなしと回答した参加者が半数以上いることから、自然災害も含めた防災意識の向上が急務であると考えられる。



避難時に必要な情報は、選択肢として用意した項目全てが半数前後の参加者が情報を必要であると回答している。

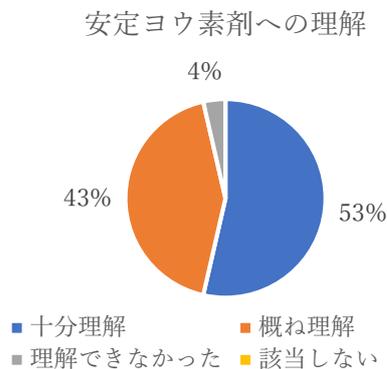
住民は様々な情報を求めていることがわかる反面、必要な情報とは何か、必要な住民に適切なタイミングで提供するためにはどのようにすべきか等の検討が必要であると思われる。



今回の訓練では、新型コロナウイルス感染症対策として、避難バス内において安定ヨウ素剤に係る説明、聞き取り、配布を実施した。

訓練前から安定ヨウ素剤に係る理解を得ていた住民も含め、参加者の9割以上が十分、若しくは大概ね安定ヨウ素剤服用に関する理解が得られたと回答している。

今回の配布方法が特別であることへの理解や、自家用車避難の場合の手順など、さらに住民にご理解いただきたいこともあることから、継続的に訓練を実施していく必要があると思われる。



2 新型コロナウイルス感染症対策

今回の訓練では、避難前の検温、バス車内における運転手との隔離、密にならない座席レイアウト等を実施した。

また、安定ヨウ素剤配布にあっては、避難住民をバスから降車させることなく、バス内で実施する

手順を確認した。

このことについて、配布に携わった役場職員からも住民からも特段意見はなかったことから、今回の手順で実災害時に実施することに問題はないと思われる。

